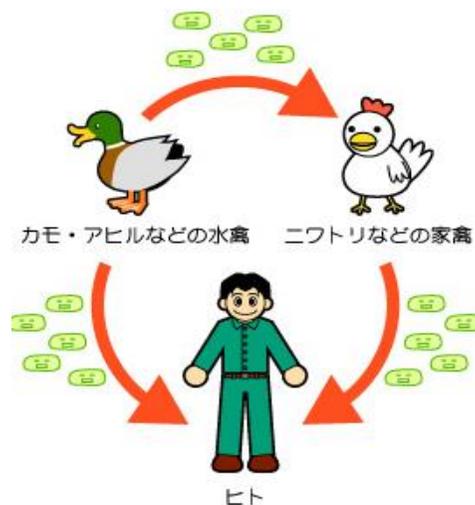


インフルエンザ

ほけせん便り187号
保健管理センター
学校医 山本 勇
2018年11月

インフルエンザウイルスは本来、カモなどの渡り鳥に感染するウイルスで、これらの鳥はインフルエンザウイルス感染で病気になることは基本的にありません。秋にカモが日本に渡ってきてインフルエンザウイルスを広め、これがヒトのインフルエンザウイルス感染になり流行となるのが典型的な考え方です。インフルエンザウイルスには3種類ありますが、ヒトに関係するのはA型とB型の2種類です。インフルエンザの感染の時期は秋から早春です。ピークは12月から3月です。インフルエンザウイルスはしばしば変化します。このためワクチンは毎年流行を予測して作られています。



インフルエンザは非常に感染力が強いウイルスです。感染している人と身近な接触があると感染が成立します。ドアノブ、蛇口のコックからもうつります。感冒ではゆっくりと症状が出現し、徐々に悪化します。しかしインフルエンザでは、日常生活が妨げられるように強く症状が出現します。発病してから2-7日で症状が出現します。症状には頭痛、強い倦怠感、節々の痛みなどです。症状の出現に気付いたら、医療機関を受診して検査を受け、適切な治療を受けましょう。はやく治療を受ければ早期に回復します。

インフルエンザA型は歴史的に大きな流行であったスペインかぜの原因です。インフルエンザB型は流行時期の終わり頃に広がるといわれています。症状はA型、B型とも大きくは変わりません。発症数は圧倒的にA型が多くなります。